

予習・授業・復習で「深い理解」を目指そう

—「深い理解」とは、学んだことを自分のことばで表現(説明)できること—

開倫塾

塾長 林明夫



Q 1 : 大学入試、高校入試、私立中入試、公立中高一貫校入試など、すべての入試で考える力(思考力)や、表現する(表現力)が問われる問題(論述型入試)が増えています。どうしたらよいとお考えですか。

A : 学校や学習塾・予備校で学ぶときには、「予習」をしっかり行い、「授業」をしっかり受け、「復習」もしっかり行って、「深い理解」を目指すことが大切です。

Q 2 : 「深い理解」とは何ですか。

A : (1) 学習院大学教授の篠ヶ谷圭太先生によれば、「深い理解」とは「自分の言葉で基本的な知識を説明できること」とされています。

(2) 学んだことを「自分のことばで説明できる」ことが、思考力や表現力を問う論述型の問題では欠かせません。

(3) また、大学や高校、中学校でレポートを書く場合に、インターネットやチャット GPT の「丸写し」では、すぐに見破られてしまい「0点」・「落第」となってしまいます。ですから、十分に勉強し、「自分のことばで説明・表現できる」までに「理解を深める」ことが求められます。

Q 3 : では、どのようにしたら「自分のことばで表現・説明できる」まで、「深い理解」を得ることが出来ますか。

A : (1) 篠ヶ谷先生は、「予習」「授業」「復習」にしっかり取り組むことが大切とおっしゃっています。「その通り」と考えます。

(2) 学ぶ内容、つまり、授業の内容が難しく・複雑になればなるほど、学校や開倫塾・予備校の授業の前に、その日の「予習」をしっかり行うことが大事です。

(3) 予習を行い、「何を新しく学ぶのか」「今まで学んだことと、どうつながっているのか」「わからないことは何か」などを事前に「知ること」です。時間があれば、テキストの一語一語、一行一行を正確に読み解き、どのような意味か考える。よく意味のわからない語句があったら辞書や用語集で調べ、調べたことはノートに書き写す。計算や問題は、ノートに解く。そして、何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むこと。これが「予習」の意味です。

○このようなやり方で、次の学年や、次の学期の「予習」を、その「学年」「学期」の始まる前に一教科でも多く済ませて、新学年・新学期に臨むことをおすすめします。



Q 4 : 「授業」はどのように受けたらよいのですか。

A : (1) 手を机の上に置き、先生の口元を見て、一語一句聞き逃さないよう、しっかり真剣に聴く。必要なこと・大切なことはすべて「ノート」に取る。(大切なことをノートに取ることができるのは、高度な言語能力です)

(2) 「予習」をしていて、よくわからなかったことは、注意深く先生のお話をお聴きする。

(3) それでもわからなければ、授業中、または、授業後に先生に質問をさせて頂き、「理解を深める」ことです。



Q 5 : 「深い理解」を得るには、どのように「復習」をすればよいのですか。そもそも「復習」とは何ですか。

A : (1) 「予習」をし、「授業」を受けた内容を「テキストや授業ノートを用いて一語一語、一文一文、もう一度ていねいに学び直すこと」。「計算」や「問題」はすべて「解き直すこと」。これが「復習」です。

(2) 「復習」をしていて、よくわからない「語句」や「文章」「内容」「計算や問題」があったら、「徹底的」に調べる。「調べた内容」は「ノート」に書き写す。そして、「なぜそうなるのか」を考える。これが「復習」です。

(3) 「ノート」は、後で勉強しやすいように「ノート整理」をする。「番号」をつけたり、大切なところは線で囲ったり、下線を引いたりする。マーカーでカラーリング、お気に入りのシールをはるのも「ノート整理」です。特に大切なところや、よくわからないところには、「教科書」や「ノート」に、印をつけておくことも大切な「復習」です。

○このようにして学んだ「テキスト」や「ノート」を繰り返し読み直すと、「深い理解」が得られます。学んだことを、自分のことばで言い表す(説明する)ことができるようになります。

Q 6 : 友達と話し合ったり、教え合ったりすること、ディスカッションやグループワーク、グループ発表やレポート提出も「深い理解」には役立つのですか。

A : (1) その通りです。小学校や中学校の「調べ学習」、高校の「探究型学習」、大学の「アクティブラーニング」などで一番役に立つのが、「学んだことを自分のことばで言い表す(説明する)ことができる」という意味での「深い理解」です。

(2) 「予習・授業・復習」をしっかり行い、「深い理解」を目指してくださいね。

(3) 「深い理解」ができたなら、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の3つの練習「定着のための三大練習」をしっかり行い、知識を更に確かなものにしましょう。



— 2024年5月12日記一